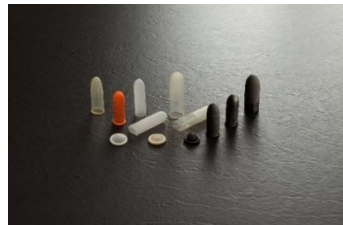


環境経営レポート



2023年度

(対象期間 2023年1月1日～2023年12月31日)

修正版作成日 2024年10月18日

株式会社 鈴木ラテックス

目次

1. 組織の概要	1P
2. 対象範囲	1P
3. 実施体制	2P
4. 環境経営方針	3P
5. 環境経営目標	4P
6. 環境経営計画	5P
7. 環境経営目標の実績と評価	6-7P
8. 環境経営活動の内容と評価、次年度の取組	8P
9. 環境関連法規などの遵守状況の確認および評価の結果、ならびに違反 訴訟等の有無	9P
10. 代表者・EA統括責任者による全体評価と見直し・指示	9P

1. 組織の概要

(1) 組織の名称および代表者

法人名	株式会社 鈴木ラテックス
代表者	鈴木孝之

(2) 所在地

本社・工場	〒285-0813 千葉県佐倉市石川591-10
-------	-----------------------------

(3) 環境管理責任者および担当者連絡先

EA統括責任者	鈴木 紀子（取締役）
環境担当責任者	飯高 勝（品質保証部）
連絡先	Tel： 043-486-7963
	Fax： 043-486-8109
	e-mail： iidaka@suzukilatex.co.jp

(4) 事業内容

指サック・風船類の製造販売

(5) 事業規模

創業	1921年
設立	1953年
資本金	3,000万円
従業員	28人

2. 対象範囲

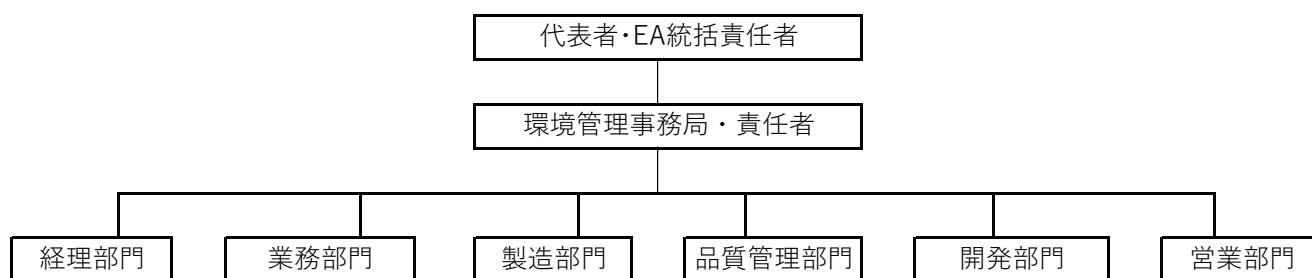
全組織、全活動、全従業員

事業年度：1月～12月

レポート対象期間：2023年1月～12月

3. 実施体制

(1) 組織図



(2) 責任および権限

代表者・EA統括責任者	・環境経営システムに関する全ての責任と運用についての権限を持つ ・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする ・環境経営方針の設定および見直しを行う ・システムの構築・運用および管理に必要な資源を用意する ・環境経営全体の取組状況を評価し、統括的に見直し、指示を行う ・環境経営レポートを作成する
環境管理事務局・責任者	・代表者およびEA統括責任者に代わりシステムの構築・運用状況を監視し、状況や結果を代表者やEA統括責任者に報告する ・環境関連法規の取りまとめを行い、遵守状況をチェックする ・環境経営目標を設定し、環境活動計画の作成および実績を取りまとめる ・問題点への取り組み活動と必要な処置を行う ・環境関連文書および記録の作成・整理・保管 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部門責任者	・自部門に関連する環境目標および環境活動計画の実施および達成状況の報告 ・教育訓練の実施 ・特定された項目の手順書作成および運用管理 ・緊急事態への対応のための手順書作成、定期的な訓練の実施 ・自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施
全従業員	・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画等に基づくEA 2 1 活動の実施 ・EA 2 1 活動に関する提案

4. 環境経営方針

当社は、地域社会との共存発展を旨として企業経営を行っていきます。
事業活動を通じて、環境の汚染防止及び保全に向けた取り組み活動を行い、
地域社会に対する責任と役割を果たしていきます。

- ★ エコアクション21 環境経営システムを構築し、維持し、有効に運用することで、環境保全に対する取り組み活動の継続と見直し、ブラッシュアップを図っていきます。
- ★ 環境影響に配慮した製品設計を行うことで、製造、提供、使用、廃棄にいたる製品のライフサイクルにおいて及ぼす環境影響の低減を推進していきます。
- ★ エネルギー資源の効率的な使用による二酸化炭素排出量の低減、水資源の適正利用、廃棄物や排水の適切な管理と低減、化学物質の効率的な使用と適正な管理を行うことで事業活動が及ぼす環境への負荷を可能な限り低減していきます。
- ★ 環境経営における課題とチャンスに対して真摯に向き合い、課題リスクの解消や低減、またチャンスへの積極的な取り組みを行っていきます。
- ★ 従業員に対する環境教育活動を積極的に行い、すべての従業員が環境保全を意識して行動できる組織環境づくりを進めていきます。
- ★ 事業に適用される法規法令ならびに業界規制を遵守します。
- ★ 行政機関や環境団体等と協力して、地域の環境保全活動に参加していきます。
- ★ 環境経営レポートの公表を通じて、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

2023年8月19日

株式会社 鈴木ラテックス

EA統括責任者

取締役 鈴木紀子

5. 環境経営目標（中長期）

項目		単位	基準年(2019年)	2023年目標	2024年目標	2025年目標
二酸化炭素排出量削減	使用量削減【電力量】	kwh	162,838	162,838	161,210	145,734
	購入量削減【ガソリン】	L	1,233	1,233	1,220	1,000
	購入量削減【軽油】	L	1,096	1,096	1,085	640
	購入量削減【LPG】	L	18,409	18,409	18,225	17,478
	4項目合計CO2排出量	kg	135,333	135,333	133,980	123,006
	削減計画(基準年対比)		—	基準年相当	2019年比-1.0%	2023年相当

※ 電力のCO2排出量は、係数「0.457」で算出しています。

産業廃棄物削減	kg	5,840	5,840	5,782	17,070
	削減計画	—	基準年相当	2019年比-1.0%	2023年相当

水使用量削減	井戸水	m ³	2,936	2,936	2,907	2,268
		削減計画	—	基準年相当	2019年比-1.0%	2023年相当
	水道水	m ³	382	382	378.1	325
		削減計画	—	基準年相当	2019年比-1.0%	2023年相当

化学物質購入量の低減	対象物質の購入量総計(含有ベース)	単位 = kg	491.00	491.00	491.00	749.81
	削減計画(基準年対比)		—	基準年相当	基準年相当	2023年相当

品質の向上			基準年(2022年)	2013年目標	2024年目標	2025年目標
品質クレーム(CAR)の低減	単位 = 件		2	2	2	—
	削減計画		—	2019年相当	基準年相当	

6. 環境経営計画

(1) 二酸化炭素削減

電力使用量の低減	・1回あたりの生産稼働時間を長くすることで、グロスでの稼働時間を削減する ・適切かつ変更のない生産計画の立案と実施 ・不在時ならびに不要な照明の消灯 ・OA機器の節電モードの実施 ・待機電気機器のスイッチ切電 ・エアコン温度管理の徹底（夏季28℃以上 冬季20℃以下） ・コピー、プリントの削減
LPG使用量の低減	・1回あたりの生産稼働時間を長くすることで、グロスでの稼働時間を削減する ・適切かつ変更のない生産計画の立案と実施
ガソリン・軽油使用量の低減	・停車時のアイドリングストップ ・低燃費走行の実施 ・最適運行、最短距離の選択 ・本社倉庫の適切な在庫調整により、第三倉庫からの横持ち回数を減らす

(2) 廃棄物の削減

	・排出される廃棄物の資源活用やリサイクル率を高める ・分別の強化 ・購入頻度の低減 ・両面印刷の推奨
--	--

(3) 水使用量の削減

	・節水を心がける（節水ラベル貼付） ・音姫の活用 ・適正な水量・水圧の維持
--	---

(4) 化学物質購入量の低減

	・過不足のない使用と残量把握 ・生産量に見合った適正な使用管理 ・効率的な生産（変更の少ない生産計画、稼働時間の効率化）
--	--

(5) 品質の向上

	・内製品、外製品の品質向上 ・品質クレーム（CAR）の低減 ・顧客及びユーザー意見の製品への反映（アンケート内容の分析と商品化）
--	--

7. 環境経営目標の実績と評価

●2023年の実績と評価

評価：◎目標10%以上削減達成 ○目標達成 ×目標未達

項目		単位	基準年	2023年		
			2019年	目標	実績	達成率
CO2削減	電力使用量の削減	kwh	162,838	基準年相当	▲11.7%	111.7%
				162,838	145,734	
	LPG購入量の削減	kg	18,409	基準年相当	▲6.7%	106.7%
				18,409	17,246.9	
	ガソリン購入量の削減	L	1,233	基準年相当	4.5%増	95.5%
				1,233	1,291.0	
	軽油購入量の削減	L	1,096	基準年相当	▲69.3%	169.3%
				1,096	647.3	
	CO2排出量の削減	kg-CO2	135,333	基準年相当	▲10.0%	110.0%
				135,333	123,006	

※ 電力のCO2排出量は、係数「0.457」で算出しています。

※ 上記CO2排出量に第3倉庫排出量を加えた総計は、126,305.84kg-CO2です。

産業廃棄物排出量の削減		Kg	5,840	基準年相当	65.8%増	34.2%
				5,840	17,070	
水 使用 量の 削減	水道水使用量の削減	m³	382	基準年相当	8.4%増	91.6%
				382	417	
	井戸水使用量の削減	m³	2,936	基準年相当	▲34.3%	134.3%
				2,936	2,186	
化学物質購入量の低減		Kg	491.0	基準年相当	34.5%増	65.5%
				491.00	749.81	
品質 向上	クレームの低減	件	2	基準年相当	50.0%増	50.0%
				2	4	

(1) CO2排出量の削減

2023年度のCO2排出量は、123.006Kg-co2となり、削減目標を10%下回って目標達成することができた。項目別にみると、電力と軽油使用量では大きく削減できているが、ガソリン使用量については目標未達（4.5%増）となった。

① 電力消費量の削減

2023年度の電力使用量は、生産数量が増加したにもかかわらず、削減目標を10%以上下回っての目標達成となった。これは、効率の良い生産が果たされたこと、ならびに全社員の協力によるものといえる。

② LPG購入量の削減

2023年度のLPG使用量も、削減目標を6.7%下回っての目標達成となった。LPGの使用は生産現場のみであるため、こちらも効率の良い生産が果たされた結果といえる。

③ ガソリン購入量の削減

2023年度ガソリン購入量は、削減目標より4.5%増える結果となり、目標未達となった。各車両ごとの購入量でみると、フォークリフトの購入量が増加しており、コロナ明けでイベント等も復活したことによって、倉庫内での運搬稼働が見込みを上回った結果と考えられる。使用実態の、より詳細な分析に向けたデータ収集を継続していく。

④ 軽油購入量の削減

2023年度の軽油購入量は、削減目標を69.3%下回っての目標達成となった。
これはトラックの保有台数を1台減らした事ならびに、1台のみのトラックで第三倉庫からの荷物移動が効率よく行われたことによる。

(2) 産業廃棄物の削減

2023年度の産業廃棄物排出量は、削減目標より65.8%増える結果となり目標未達となった。
年度前半は、計画目標内であったが、後半の生産増によって廃棄物が大幅に増えた。
しかしながら、生産不良率は変わっておらず、非常に良い値で生産が行われていたことから、事前の計画が甘かった結果の未達と考えられる。

(3) 水使用量の削減

① 水道水使用量の削減

2023年度の水道水使用量は、削減目標より8.4%増となり目標未達となった。

② 井戸水使用量の削減

2023年度の井戸水使用量は、削減目標を34.3%下回っての目標達成となった。
年度初めに指示した適切な水量および水圧の確認、調整が功を奏した結果と考えられる。
引き続き継続実行していく。

(4) 化学物質購入量の低減

2023年度の化学物質購入（対象物質の含有ベース）量は、低減目標より34.5%増える結果となり未達となった。コロナ禍で停止していた生産が稼働し、また、生産増となったために必要な全ての化学物質購入量が計画を上回ったことに起因する。次年度以降は生産計画および使用の実態から計画策定を図る。

(5) 品質の向上

2023年度の品質クレーム（CAR）件数は、低減目標より50.0%増える結果となり未達となった。発生した4件はすべて当工場での生産品ではなかったが、顧客やユーザーにとっては当社製品に対する品質クレームにほかならない。発生の制御、低減に向けた取り組み活動を継続していかなければならない。また目標の立て方についても今後考慮する必要がある。

8. 環境経営活動の内容と評価、次年度の取組み

(1) 二酸化炭素削減

項目	活動内容	評価	次年度の取組
電力使用 料の低減	1回あたりの生産稼働時間を長くすることで、グロスでの稼働時間を削減する	○	継続実施
	適切かつ変更のない生産計画の立案と実施		
	不在時ならびに不要な照明の消灯	△	継続実施
	OA機器の節電モードの実施	△	継続実施
	待機電気機器のスイッチ切電	△	継続実施
	エアコン温度管理の徹底（夏季28℃以上 冬季22℃以下）	○	継続実施
	コピー、プリントの削減	○	継続実施
LPG使用 量の低減	1回あたりの生産稼働時間を長くすることで、グロスでの稼働時間を削減する	○	継続実施
	適切かつ変更のない生産計画の立案と実施		
ガソリン 軽油使用 量の低減	停車時のアイドリングストップ	○	継続実施
	低燃費走行の実施	○	継続実施
	最適運行、最短距離の選択	△	継続実施
	本社倉庫の適切な在庫調整により、第三倉庫からの横持回数を減らす	○	継続実施

(2) 廃棄物の削減

活動内容	評価	次年度の取組
排出される廃棄物の資源活用やリサイクル率を高める	△	継続実施
分別の強化	△	継続実施
購入頻度の低減	△	継続実施
両面印刷の推奨	×	継続実施

(3) 水使用量の削減

活動内容	評価	次年度の取組
節水を心がける（節水ラベル貼付）	○	継続実施
音姫の活用	△	継続実施
適正な水量・水圧の維持管理	○	継続実施

(4) 化学物質の使用量低減

活動内容	評価	次年度の取組
過不足のない使用と残量把握	△	継続実施
生産量に見合った適正な使用管理	△	継続実施
効率的な生産計画、稼働時間の効率化	○	継続実施

(5) 品質の向上

活動内容	評価	次年度の取組
品質クレーム（CAR）の低減	×	継続実施
顧客からの意見収集	○	継続実施
業務改善に向けたアイデアの呼びかけ	△	継続実施

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認および評価、 ならびに違反および訴訟の有無

(1) 関連する主な法律、条令、業界規制等の名称と遵守状況

法規制等の名称	遵守状況の確認・評価
	確認日(1回/年)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同 施行規則	直近実施日 2023年12月21日 (当該修正レポート作成時での 直近実施日は2024年7月3日)
大気汚染防止法、千葉県環境保全条例	
騒音規制法施行令、同 施行規則	
振動規制法施行令、同 施行規則	
毒物及び劇物取締法	
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	
RoHS指令、REACH規制	

(2) 違反および訴訟の有無

上記関連法については、遵守していることを確認した。
各機関からの指摘・指導、訴訟も無し。

10. 代表者・EA統括責任者による全体評価と見直し・指示

(1) 全体評価

今年度初めてEA21の認証を得て、手探りながらもコロナ禍前の2019年度実績を基準値として今年度の各削減項目が基準値相当となることを目標に活動を行った。

2022年秋頃より、世界的は規制ならびに自粛が緩和の方向となったことから、当社でも製造ラインが再稼働し、それに伴い、各経営資源の確保が急務となった。

コロナが収束し各地でイベント再開の方向であることから、2019年よりも増産の生産計画を立てていたが、実際にはそれも上回る事となり、更なる追加生産を行う事となった。このため産業廃棄物の廃棄量の削減ならびに化学物質購入量の低減については、大幅な目標未達となってしまった。しかしながら大幅な増産となったにも関わらずLPG購入量で6.7%、井水使用量で34.3%それぞれ削減目標を下回る結果で目標を達成し、CO2の削減では唯一ガソリン購入量が4.5 %増となってしまったものの削減目標を10%以上下回る結果で目標達成できたことは、この活動に対する有効な結果が得られていると考えられる。

次年度以降は、生産計画と使用実態から目標値を設定し、更なる達成率UPのために出来る努力を継続して行っていきたい。

(2) 見直しの有無

環境経営方針、環境経営計画、取組実施体制については変更なし。
環境経営目標については変更済み

(3) 今後の方向性

現在、人材不足が最も懸念されていることではありますが、必要な資源の確保、法規制類の遵守と安全に努め、活動を継続してください。

更なる無駄の削減、生産効率のUPが結果として環境保全活動に繋がっていきます。

各人および各部門ならびに必要なに応じて海外子会社も含めたグループ全体で協力して品質維持と環境への対応に努め、継続実行してください。